

令和元年度第2回北本市文化財保護審議会

と き 令和元年10月28日(月)
午後2時00分から
ところ 北本市庁舎3階 3-B会議室

次 第

- 1 開 会
- 2 あいさつ
- 3 現地調査
 - (1) 「石戸蒲ザクラ」のき損状況について 資料1
 - (2) 「エドヒガンザクラ」の倒壊について 資料2
- 4 報 告
 - (1) 「エドヒガンザクラ」の指定の扱いについて 資料2
 - (2) 「デーノタメ遺跡」の総括報告書の刊行について
 - (3) 深井家文書の寄贈について 資料3
 - (4) 上宿遺跡の発掘調査について 資料4
- 5 議 題
 - (1) 市指定文化財の候補について
 - ア●●家文書 資料5
 - イ放光寺旧蔵の霊柩車 資料6
 - (2) 「デーノタメ遺跡」の関連事業について 資料7
- 6 そ の 他
 - (1) 令和元年度視察研修について 資料8
- 7 閉 会

3 - (1) 「石戸蒲ザクラ」のき損状況について

「石戸蒲ザクラ」き損の経過

日付	時間	内 容
9月8日(日)	深夜	台風15号関東上陸
9月9日(月)	8:15	地元から大枝の毀損があった旨の報告
	9:00	文化財保護課にて現地確認
	9:30	市長、副市長現地確認
	13:00	埼玉県文化資源課へ状況報告
	13:30	枝の撤去に係る現地打合せ
	15:00	文化資源課から今後の対応について指示
9月10日(火)	10:00	き損枝から枝葉のサンプル採取
	11:00	東明寺住職へ連絡
9月11日(水)	9:00～	き損枝の撤去作業
9月12日(木)	9:00～	棄損箇所の薬剤塗布作業
	15:00	「史跡、名勝又は天然記念物の滅失、き損等の届出書」の提出

1 落下枝の大きさ

長さ 8.6m、 直径0.4m

2 棄損箇所の処理状況

- ① 患部を水流によりクリーニング
- ② 殺菌剤として、トップジンMを塗布
- ③ 保護剤として、ラックバルサンを塗布



き損前の蒲ザクラ(東から)



き損直後の蒲ザクラ(東から)



き損前の蒲ザクラ(西から)



き損直後の蒲ザクラ(西から)



き損枝の撤去作業①



き損枝の撤去作業②



き損箇所のクリーニング作業



薬剤塗布作業

4-(5) 深井家文書の寄贈について

深井●●家文書 北本市荒井

1、資料収集の発端と主な資料

2019年7月、深井家の納屋を解体する際に収集した資料で、整理の結果1400点余を数えることができた。虫食いがひどく、まだ開いていない(開けるか不明)資料も1点としてカウントした。

所有者からの聞き取りをする時間もなく、資料の背景は全く不明のまま引き取った。最初、地価帳・地租総額人名簿・田畑宅地山林帳など公文書かと思われるものが目にとまったが、簿冊の末尾に「何年何月誰筆写」と記されたものが複数あり複写とわかる。なお深井家は、旧下石戸上村字南に位置する。

2、資料の背景

深井家は、市史編さん当時の資料収集対象になっておらず、公文書の写しをなぜ所有しているのかわからなかった。

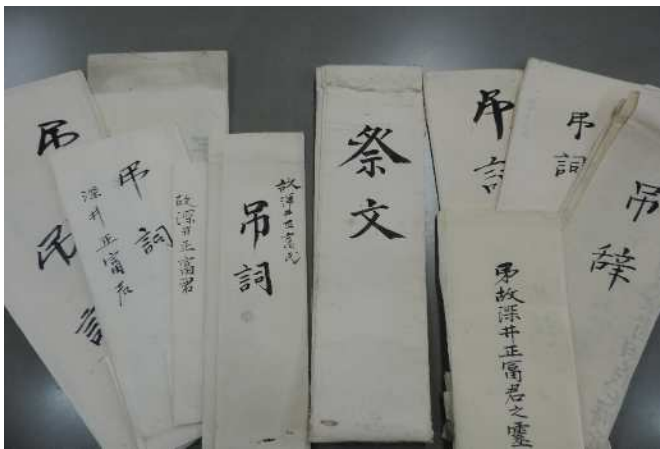
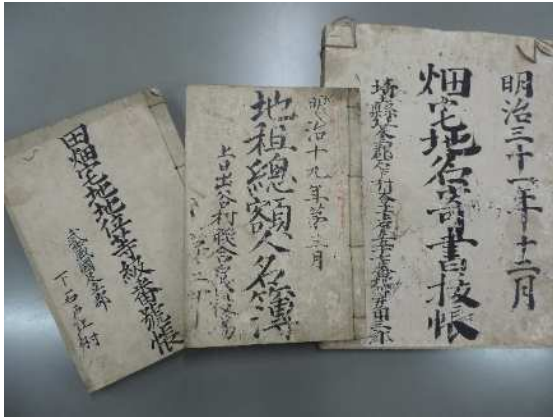
資料整理を進めるうちに、これらを残した深井●●●(安政2年生)が明治18年に戸長役場筆生として勤務し、明治29年からは石戸村役場の助役を務めていたことがわかった。また●●●が「役場勤務中」「賞状及び免状類」「学務地目変換其他写しもの」「正富弔詞」などと分類整理したものも多かった。

3、今後の作業

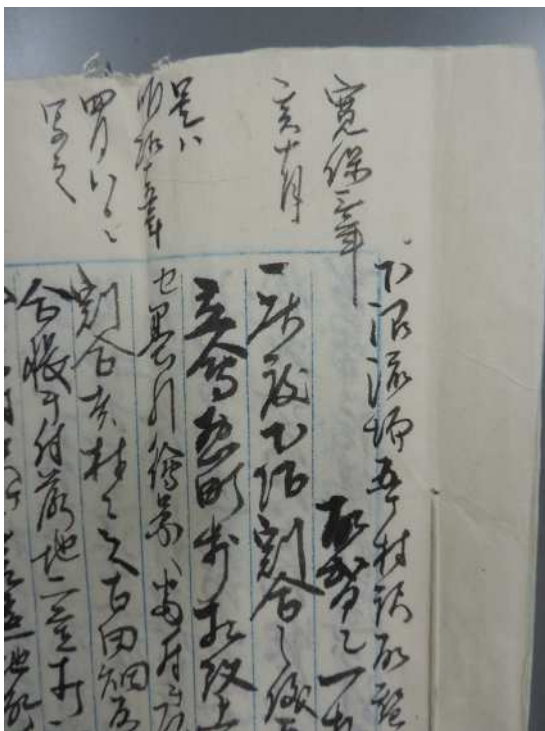
一覧表作成を急ぐため、書簡類は内容を読んでいないものが多い。内容確認が進めば、新しい発見が期待できる資料群だと思われる。

資料を読み込んだ一例として「正富弔詞」包を開けて判明したことを記す●●●は長男を病気で亡くし、跡継ぎと定めた二男も1歳の息子を残して日露戦争で戦死した。日露戦争では、石戸村で3人の戦死者があった。3人の村葬が行われた時の正富に対する祭文と多くの弔詞、三男が読んだ答辞が含まれていた。

最後に、現所蔵者の深井●●●氏は深井●●●の玄孫にあたる。



明治 38 年 10 月 15 日
真福寺において村葬が行われる



寛保三年亥年十月
下沼流場五ヶ村取替……
是は明治十五年四月八日写之

寛保 3 年の約定の有効性が明治 12 年に
裁判で争われた。この写しが作成された
のもそれと関係があるのではないか。

上宿遺跡の発掘調査について

- 1 遺跡の名称 上宿遺跡 (No. 1 6 - 0 8 3)
- 2 遺跡の種類 集落跡
- 3 調査原因 個人住宅建設
- 4 所在地 北本市石戸宿6丁目241番地2
- 5 調査年月日 令和30年9月17日～令和元年10月1日
- 6 調査主体 北本市教育委員会
- 7 発掘担当者 坂田 敏行 (北本市教育委員会文化財保護課主任)
- 8 調査面積 約75㎡
- 9 調査内容

上宿遺跡はJR高崎線北本駅の南西約3.6kmの距離に位置し、行政区上は石戸宿6丁目地内に所在します。遺跡は、西に荒川を望む台地やや内陸部に位置しており、標高は約23mです。調査は個人住宅建設に伴う緊急発掘調査で、約75㎡を対象として実施しました。

調査の結果、戦国時代後半から江戸時代前半(約430年前～約400年前)のものと考えられる掘立柱建物跡3棟、土坑25基、ピット(小穴)40基、堀跡1条等を確認しました。

掘立柱建物跡は、南側に廂を持つと考えられる^{はりゆき けん}梁行2間の建物1棟と、梁行4間の建物1棟、梁行3間の建物1棟の計3棟が確認されましたが、いずれも主屋部は調査区域外の北側に展開し、全体の規模は不明です。

土坑は、貯蔵用と考えられる長方形を呈する遺構の他、^{ぼこう}墓壇と考えられる長方形および円形の土坑が見つっていますが、特に第16号土坑はすり鉢が伏せられた状態で出土しており、被葬者の顔面を覆っていたと思われ、いわゆる^{なべかぶ そう}「鍋被り葬」の痕跡であった可能性があります。

堀跡は幅約3m、深さ約1.5mの規模で、現在の土地の境界に沿って検出されています。これによって、戦国時代から江戸時代にかけての宿並みが堀跡で区切られていた可能性があることがわかり、当時の屋敷の景観が復元できる情報が得られました。

出土遺物としては、戦国時代後半から江戸時代前半のものと考えられるかわらけ、すり鉢、志野焼、天目茶碗などがあります。他には、旧石器時代のナイフ形石器が出土しています。

今回の調査によって、「宿並三十六軒」といわれた石戸宿の景観の一部垣間見える成果が得られました。また、検出した堀跡については、今後古地図や地引図等に残る痕跡を確認し、中世から近世における当該地の状況を明らかにしていきたいと考えています。



写真1 調査区全景



写真2 作業風景



写真3 第1号掘立柱建物跡



写真4 第2号掘立柱穴建物跡



写真5 第16号土坑



写真6 すり鉢の出土状態



写真7 遺物出土状態（すり鉢片）



写真8 第1号堀跡

・業務実施位置図 II



資料5 北本市指定文化財指定理由書(案)【●●家文書】

個人情報が含まれるため、非公開

指定番号	北文指定第 号	種 別	有形民俗文化財
名 称	放光寺旧蔵の霊柩車	員 数	1 基
所有者氏名	北本市教育委員会	所有者住所	本町 1 丁目 111 番地
管理責任者	北本市教育委員会	管理責任者住所	本町 1 丁目 111 番地
所在場所	北本市古市場 1 丁目 156 番地(旧給食センター)		

【指定理由】

この霊柩車(一般的には棺車と呼ばれる)は、石戸宿 6 丁目に所在する放光寺が長く所蔵していたものであり、現在は教育委員会が寄贈を受け保管している。

霊柩車の形態は四輪の大八車に輿を乗せた宮型である。輿の屋根は切妻で二方破風である。墓股の装飾部は蓮花や竜が施された透かし彫りとなっており、鬼板部には放光寺の紋が描かれる。棺室の左右には火灯窓形に窓が施され、御簾が下げられている。扉は観音開きとなっており、格狭間が開けられ前面には門がかけられる。棺室の下部は引手のついた滑台があり、棺を収納する際には手前に引き出し、その上に棺をのせ輿内に収める構造となっている。

台車部は前方部に小型の車輪を配し、左右にハンドルが切れるようになっている。また、木製の引手は取り外し式で前輪の車軸に連動して動かすことができる。

付属品として竜頭形の燭台が 5 点残存するが、それぞれ竜頭の形態に差があり、おそらくは二点一組であったと考えられる。

棺室内部の寸法は幅●●m、高さ●●m、奥行き●mで、おおよそ直径●cm、高さ●cmの座棺を収めることができると想定される。

世話人として製作を依頼した人物は、石戸宿在住の放光寺檀家総代であり、台車下部に吊り下げられていた木札には墨書で「昭和六年拾貳月参拾日」の墨書が残っていることから、この時期に製作されたと考えられる。

なお、霊柩車が最後に使用されたのは、平成 10 年 6 月 12 日のことで、埋葬形態は土葬であったという。

この霊柩車は保存状態が極めて良好であるうえ、近隣にも完全に残された例はない。このため昭和初期から平成にかけて、当地における葬送の様子を今に伝える文化財として貴重である。



靈柩車全景



付属の燭台



昭和六年拾貳月參拾日



世話人
鈴木英治

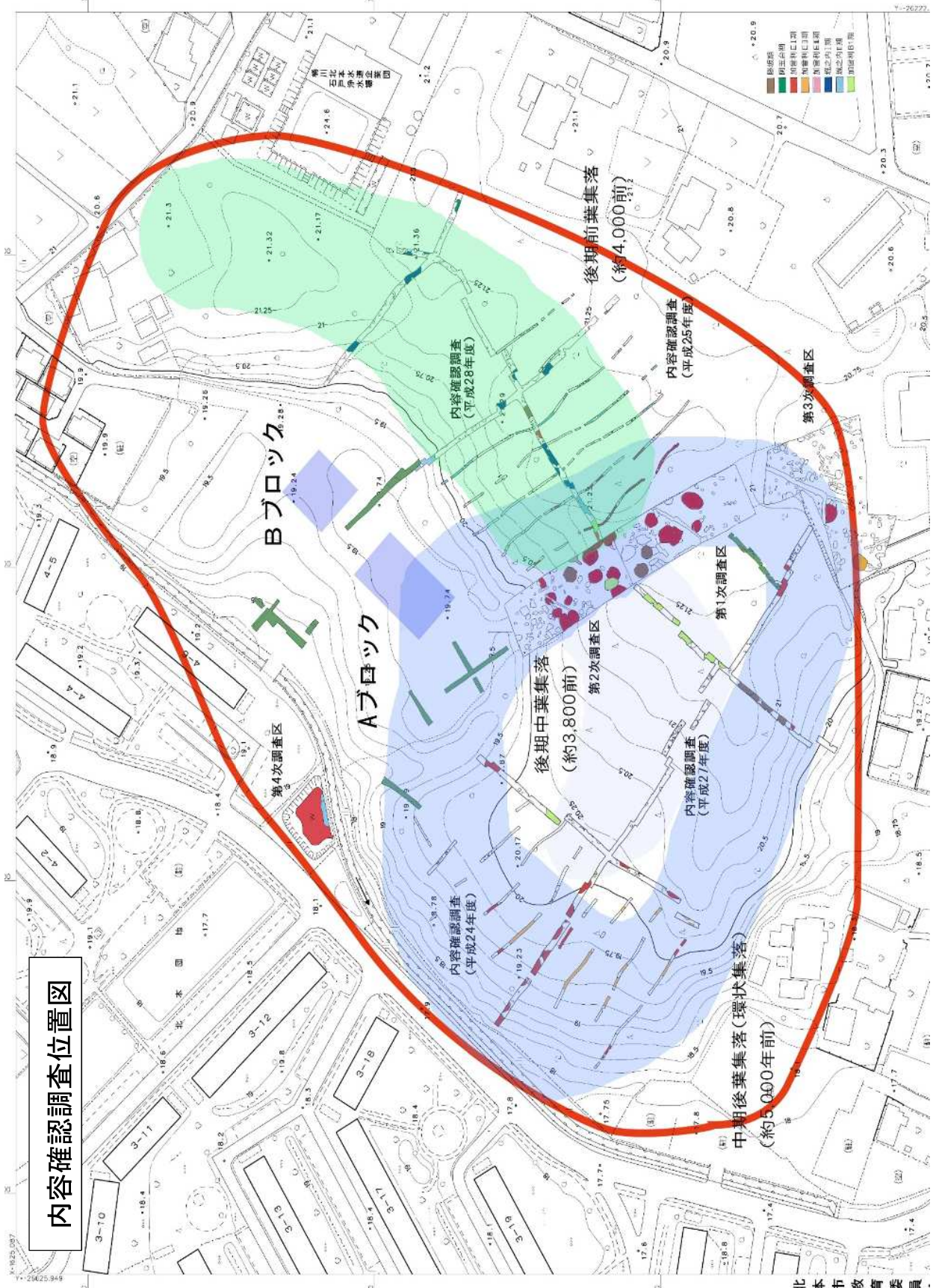
木札に書かれた墨書

資料 7

5-1(2)「デーノタメ遺跡」の関連事業について

		令和元年度					
		10月	11月	12月	1月	2月	3月
1	期間		↑				
	内容	原稿作成・契約		●	●		
2	期間	↑	↑	●			
	内容	調査開始	現地説明会 調査指導委員会	調査終了			
3	期間		●	●	●	●	↑
	内容		調査指導委員会	ポスター、チラシ作成	資料集作成	シンポジウム	再現文化財展示

内容確認調査位置図



シンポジウム「デーノタメ遺跡が拓く縄文の世界Ⅲ」について(案)

日 時 令和2年2月24日(月・祝) 午後1:00～

場 所 北本市文化センター ホール(定員710名)

テーマ 「デーノタメ遺跡の特徴と活用」(仮)

開 場 12:00

開 会 13:00～13:10

(1) 開会の言葉

(2) 来賓あいさつ

(3) 来賓紹介

1 基調講演 13:10～13:55

宮腰哲雄 先生 明治大学

「漆の分析から見るデーノタメ遺跡(仮)」

【休 憩】 13:55～14:05

2 報 告 14:05～15:50

報告1 14:05～14:20

北本市教育委員会

「デーノタメ遺跡について(仮)」

報告2 14:20～14:50

小林恵美 先生・北本市教育委員会

「漆塗土器の復元について(仮)」

【休 憩】 14:50～15:10

報告3 15:10～15:40

秋山邦雄先生 株式会社歴史環境計画研究

デーノタメ遺跡の活用(仮)

【休 憩】 15:40～16:00

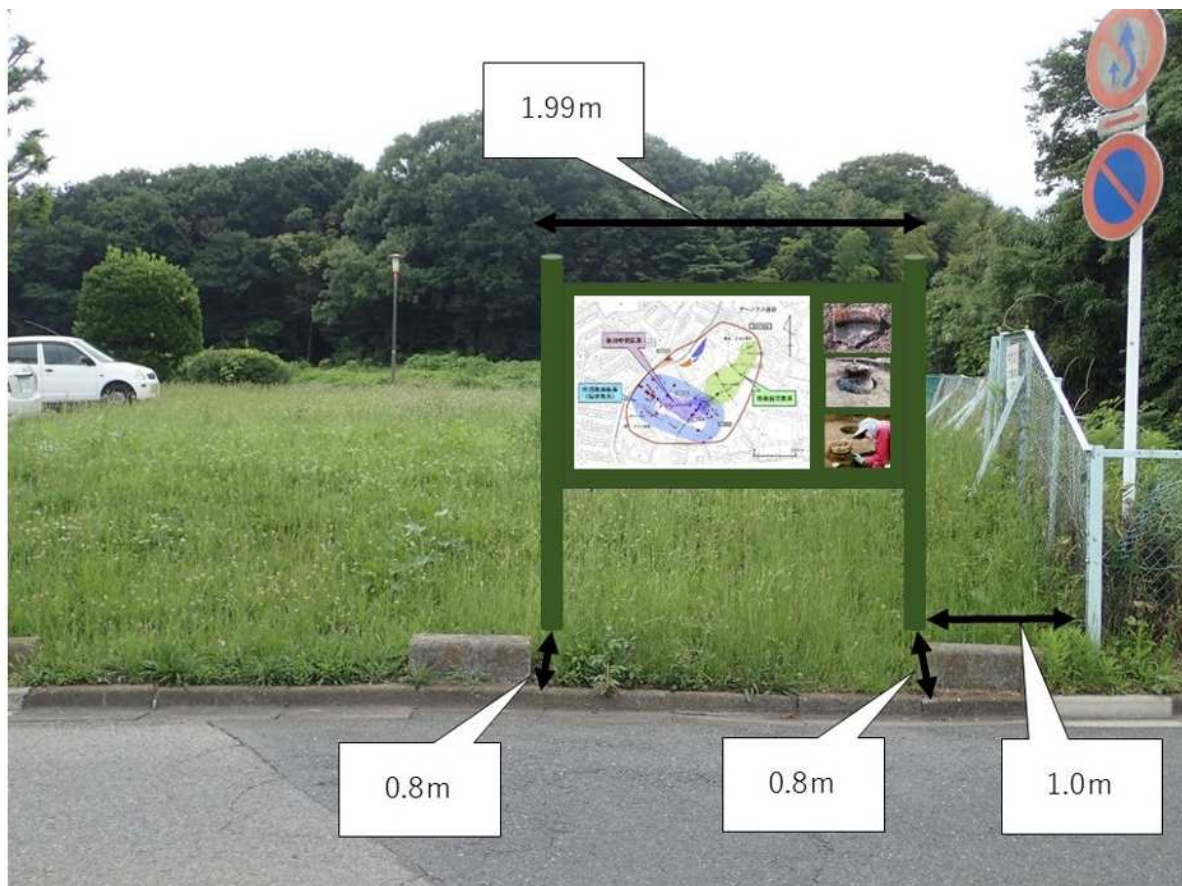
3 パネルディスカッション 16:00～17:00

司 会 []

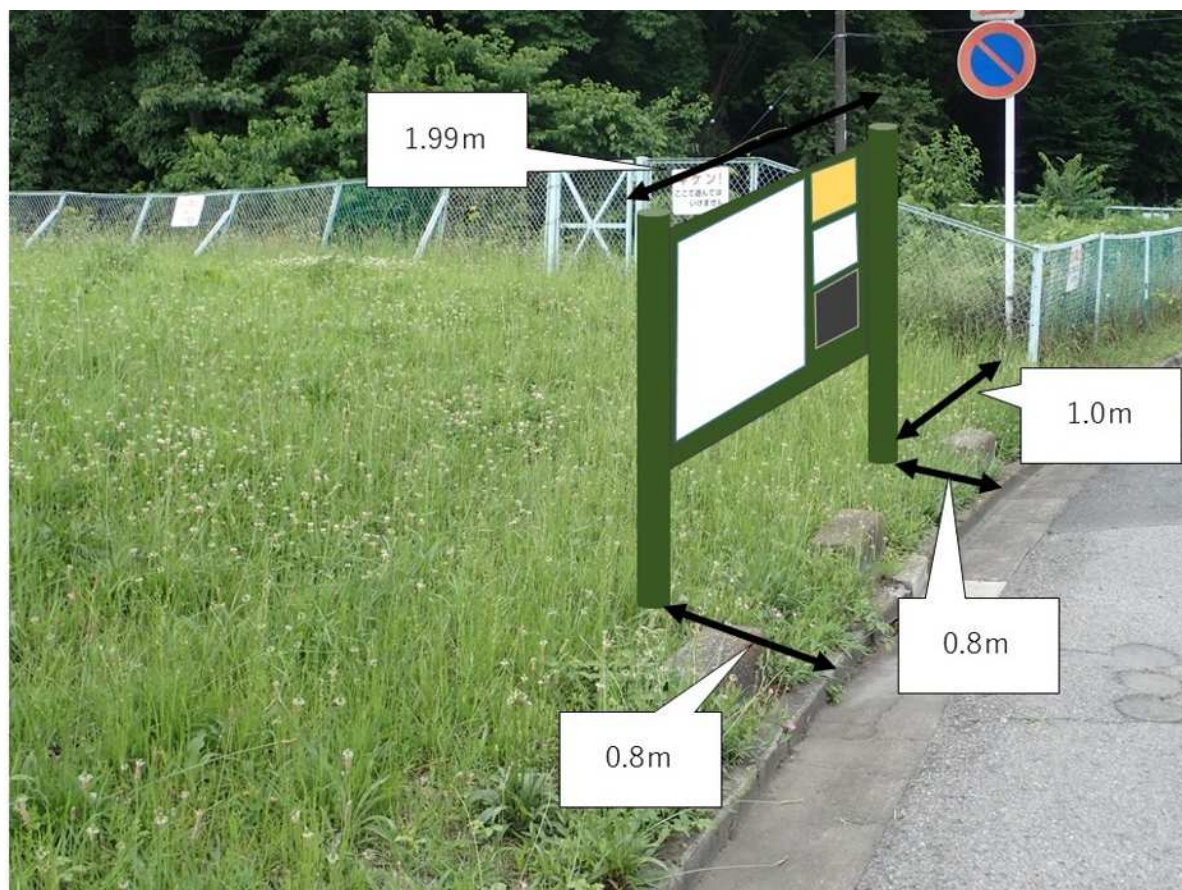
パネリスト [] [] 北本市教

閉会の言葉 17:00～17:10

「デーノタメ遺跡」案内板設置について(案)



案内板位置図(北から)



案内板位置図(北から)

6- (1) 令和元年度視察研修について

日付：11月15日(金)

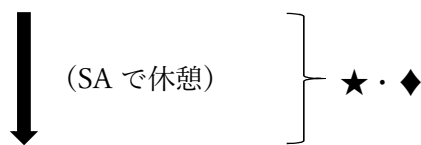
集合場所と時間：北本市役所 1階ロビー 8:30 集合

随行職員：磯野・吉田

行先：加曾利貝塚…千葉市若葉区桜木 8-33-1

堀ノ内貝塚…市川市堀の内 2-15

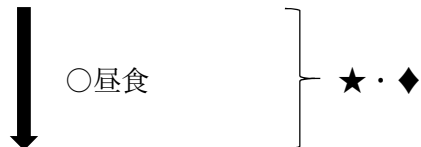
●北本市役所出発(8:30)



(SAで休憩)

★・◆

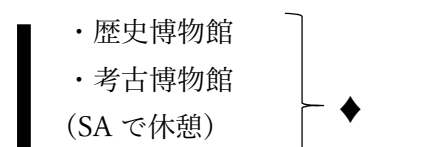
●加曾利貝塚(1時間程度)



○昼食

★・◆

●堀ノ内貝塚(1時間程度)


 ・歴史博物館
 ・考古博物館
 (SAで休憩)

◆

●北本市役所到着(17:00)

★…どちらかで貝塚トンネルを通過(荒屋敷貝塚)

◆…他の研修先を1~2カ所視察

【千葉市】

- ・千葉市立郷土博物館
- ・千葉県立中央博物館

【市川市】

- ・里見公園
- ・法華経寺

【松戸市】

- ・戸定歴史館

【葛飾区】

- ・柴又帝釈天

など

研修先候補一覧

場所	見学地名	営業時間	駐車場	解説等	補足
千葉市	千葉市立郷土博物館	9:00~16:30	○	○	入館料無料・解説は要予約
	千葉市県立中央博物館	9:00~16:00	×	○	野外観察園併設
	千葉神社	6:00~18:00	×	×	
市川市	市川市立歴史博物館	9:00~16:00	○	×	堀の内貝塚敷地内併設・入館料無料
	法華経寺	9:00~17:00	○	×	
	葛飾八幡宮	8:00~16:00	○	×	
	里見公園	8:00~17:00	○	×	入館料無料
	姥山貝塚	9:00~17:15	○	×	
松戸市	戸定歴史館	9:00~16:30	○	×	
葛飾区	柴又帝釈天	5:00~20:00	○	×	庭園とギャラリーの見学は有料

貝塚トンネルについて

- ・京葉道路か国道 16 号線千葉バイパスで通過できます
- ・京葉道路のトンネルを通過する場合は松ヶ丘 IC か大宮 IC でしか降車・乗車ができません(貝塚 IC での乗車・降車は不可)

